

2-1 プレクラスの実施状況について（2022年度実績）

	市町村名	所管課	スクール・クラス名	実施形態	委託先	対象年齢	定員	実施場所	内容（実施期間、実施回数、カリキュラム、主な内容等）						課題		
									教室開設期間	一人当たりの通室期間	一人当たりの実施回数	1日あたりの時間	参加人数（2月末までの累計）	参加者の主な国籍		語彙テストの実施の有無	カリキュラム（主な内容）
1	名古屋市	教育委員会指導部指導室	初期日本語集中教室	直営		小中学生	各教室 対面指導10人程度 (宮前教室は遠隔型指導も実施、定員10人程度)	名古屋市立東海小学校内 名古屋市立宮前小学校内	4月～3月 (年間を通じて開設) 遠隔型指導は6月～10月11月～2月	対面指導は3か月程度 遠隔型指導は4か月程度	対面指導、遠隔型指導ともに60回程度	対面指導は2時間程度 遠隔型指導は1時間30分程度	対面指導と遠隔型指導を合わせて69人	フィリピン、中国 (入級に際して、国籍は問わない)	有 (DLA)	「音声」「文字」「語彙」「文法」「読解」「聴解」「作文」の項目を柱にしている。	・コロナ禍による入国制限が緩和され、令和4年度は、9月以降、初期日本語集中教室への入級希望者が大幅に増加しており、入級までの待機期間が長くなっている。 ・今年度、保護者の送迎が困難な小学生を対象として遠隔型指導を開始したが、より早く、より多くの児童生徒が初期日本語指導を受けることができるように次年度から中学生も対象にして実施する。
2	豊橋市	学校教育課	初期支援コース「みらい」 「きぼう」	直営		小学2年生から中学3年生	特になし	みらい東：豊岡中学校内 みらい西：羽田中学校内 きぼう：岩西小学校内	通年（4月～3月） 小学生コース：（月）～（木）通級、隔週の（金）は在籍校へ 中学生コース：（月）～（木）通級、毎週（金）は在籍校へ	小学生コース：6週間 中学生コース：10週間	小学生コース：135単位時間程度 中学生コース：200単位時間程度	5単位時間	中学生対象の「みらい」：41人 小学生対象の「きぼう」：47人	ブラジル、フィリピンが大半を占める。（少数で、中国、ネパール、パキスタン、ボリビア、ペルー、ベトナム、タイ）	有（愛知県プレスクールマニュアル語彙調査）	〔主な学習内容〕 ・登下校の注意や保健室の利用、学校での日課（給食や掃除など）、遊具の使い方や遊びのルールなど、日本の学校生活への適応指導。 ・持ち物の準備や宿題の提出など、基本的な学習習慣を身に付ける指導。 ・挨拶の言葉や学習の指示語など、具体的な場面で使う日本語表現。（サバイバル日本語） ・学校生活頻出語彙や、ひらがななどの文字の読み書きの学習。（日本語基礎） ・日本の方法による四則計算の学習。（算数・数学の基礎） ・母国での学習経験が少ない教科（音楽、体育、図工美術など）の体験的な学習。 〔指導者〕 ・どのコースとも、正規教員（県の加配教員）が指導を行う。 ・バイリンガル相談員や登録バイリンガルが母語支援にあたる。 ・日本語教育相談員をコースと学校、市教委をつなぐコーディネーターとして配置。	外国人児童生徒の編入の流れに合わせ、柔軟に対応できるような体制づくりが必要だと考える。今年度は規制の緩和に伴い、コロナ禍で止まっていた編入の流れが、特に秋以降に激しくなり、本市の特色である「集住と散在」がさらに進んでいる。それを受け、来年度の初期支援コースは、次のように改編する。 ◆東部地区は国内有数の外国人住民集住地域で、編入児童生徒が極めて多い。編入児童生徒が多いが故に、更にきめ細かな指導が求められる。小学生・中学生それぞれの発達段階に対応した初期支援コースを展開する。 ◆南西部は散在傾向にあり、指導者が少ない中で編入児童生徒に十分な指導が難しい学校もある。できるだけ多くの児童生徒が通級しやすく、集団で学び合える環境を整えるために、小中学生対象の初期支援コースを展開する。
3	岡崎市	岡崎市教育委員会学校指導課	日本語初期指導教室『希望』（通称 プレクラス）			小学校4年生～中学校3年生	特に定めはないが、小学校30人、中学校30人を目安としている	岡崎市中南中学校の教室を借りて実施	8：45～15：10	約3か月	約48回	5単位時間／日	53人	ブラジル、フィリピン、中国、スリランカ、ネパール等	有 (DLA)	・日本語（文字、語彙、基本文型、会話） ・算数（個に応じた四則計算、文章題など） ・基本的な学校生活（日本の学校に慣れるための学習）	・多言語化が進んでおり、母語を話せる日本語教育講師は限られており（ポルトガル語、中国語、フィリピン語）、本人や保護者との意思の疎通を図るのが難しい。 ・散在化が進んでおり、プレクラスは市内に1か所なので、居住地によっては通所をあきらめなければならない家庭もある。
4	瀬戸市	学校教育課	日本語初期指導教室	直営		小学1年生～中学3年生まで	特になし	瀬戸市立原山小学校・瀬戸市立下品野小学校の初期指導教室	通年	3週間～4週間程度	通室期間中に実施	3時間程度	19人	ペルー、ブラジル、フィリピン、スリランカ	有 (DLA)	・簡単な日常会話の練習 ・自身の気持ちの表現 ・ひらがな、カタカナ ・学校生活の知識 ・学年レベルの算数	実施場所以外の学校に在籍している場合、実施場所までの送迎が必要となっている。現在は、送迎不能な場合は指導員が在籍校まで赴いている。市内では外国人児童生徒が散在化しているため、指導員のシフト編成が困難になってきている。
5	半田市	半田市教育委員会学校教育課	半田市日本語初期指導教室	委託	NPO法人プラス・エデュケート	小学校1年生～中学校3年生	年間30人（1チーム10人程度）	1チームごとに設置校を変えている	第1チーム：4～7月、第2チーム：9～11月、第3チーム：12～3月	3か月	60回	4時間	26人	ブラジル	有 (DLA)	委託先の独自のカリキュラムを使用	保護者が送迎できないために初期指導教室の設置校に通えない児童生徒に対して、今年度はオンライン授業で別の学校からも参加できるように試みた。しかし、オンラインで授業を受ける学校側も日本語指導が必要な対象児童生徒にはだれか先生が付いて対応する必要があり、その先生すら準備できない学校は初期指導教室への参加に積極的にならなかった。
6	豊川市	市民協働国際課	豊川市こぎつね教室	直営		6歳～15歳	90人	豊川市諏訪3丁目300番地プリオビル5階	月曜日～金曜日（土、日、祝日及び年末年始を除く）	6ヶ月	週2回	2時間	62人	ブラジル、ベトナム、ペルー、フィリピン、バングラデシュ、インドネシア、韓国	有 (ひらがな、カタカナ)	・日本語の初期指導（ひらがな、カタカナ、漢字、物の名前など） ・初期算数 ・学校での生活ルール指導 ・農業体験や日本の文化体験などを通して地域社会との交流を行う ・オンライン授業 中学生：テキストを使用した学習・日本語会話など 小学生：日本語の初期指導など	教室を修了した児童・生徒のうち学校生活に馴染めず、不登校になってしまうこともあるため、そのような場合でも常に学習ができるようにオンライン授業を活用するなど、教室を修了した児童・生徒のアフターケアを行う。
7	刈谷市	刈谷市教育委員会学校教育課	外国人児童等指導事業	直営		年長～中学3年生 ※ただし年長は10月から	なし	刈谷市立かりがね小学校・刈谷市立朝日小学校	刈谷市立かりがね小学校（月・火・木） 刈谷市立朝日小学校（火・水・金）	定めなし	定めなし	定めなし	44人	ブラジル・フィリピン	無	・日本語の指導や学校生活への適応指導（ひらがなを読む、あいさつができる、生活習慣等）	・保護者送迎が難しい場合がある。
8	豊田市	教育部 学校教育課	ことばの教室	直営		小学校1年生～中学校3年生	特になし	豊田市立西保見小学校・豊田市立野見小学校・豊田市立大林小学校・豊田市立保見中学校	通年	3か月程度	60回程度	5時間	70人	ブラジル、フィリピン	無	あいさつ、自己紹介、学校生活のルール、体の不調、身の回りの物の名前、数、日付や曜日、天気、時刻、1日の学校生活、学校の場所、持ち物、家族、母国紹介、週末のできごと、将来の夢、植物や生き物の成長、交通安全、避難訓練、私の成長、お礼の手紙など	・個人や家庭によって、日本語の習得状況に差が出る ・入室する子どもの数が見通せず、計画が立てにくい ・力量のある指導員の確保、研修機会や予算の確保 ・送迎ができない、または通室する手段がないため、ことばの教室で学ぶことができない子どもがいる
9	安城市	学校教育課	日本語初期指導教室	委託	NPO法人 トルシーダ	6～15（小学校・中学校の該当年齢）	1校につき15人程度	市内小学校2か所	4月～3月	3か月を目安	1回	5時間	46人	ブラジル、フィリピン、バングラデシュ等	無	小学校低学年：文字、言葉、音読、算数に関する概念等 小学校中高学年：会話、文字、語彙、文型、計算（基礎） 中学生会話、文字、語彙、文型、計算（基礎）	・児童生徒の使用言語が多用化しており、対応できない場合がある ・参加する児童生徒が年々増加しており、対応する教員、使用する教室は不足している ・保護者の都合で通えない児童生徒がいる
10	西尾市	西尾市教育委員会 学校教育課	日本語初期指導教室カラフル	直営		義務教育年齢	なし	日本語初期指導教室カラフル（鶴城小内）	令和4年4月～令和5年3月	3か月程度	48回程度	通常授業時間	95人	ブラジル、ベトナム、中国、フィリピン等	無	学校生活に必要な基本的生活習慣の指導、日本語指導、教科学習の導入など。	

2-1 ブレクラスの実施状況について（2022年度実績）

	市町村名	所管課	スクール・クラス名	実施形態	委託先	対象年齢	定員	実施場所	内容（実施期間、実施回数、カリキュラム、主な内容等）						カリキュラム（主な内容）	課題	
									教室開設期間	一人当たりの通室期間	一人当たりの実施回数	1日あたりの時間	参加人数（2月末までの累計）	参加者の主な国籍			語彙テストの実施の有無
11	蒲郡市	蒲郡市教育委員会 学校教育課	きぼう教室	直営		小学1年生～中学3年生	20人程度	蒲郡市立塩津中学校中学校舎3階	開校日	3か月	平均40回	3時間	26人	フィリピン 中国 ベトナム ブラジル	無	愛知県教育委員会「日本語初期指導教室の在り方リーフレット 120時間プログラム」	・児童生徒の母語が多様化することにより、語学補助員の言語では対応できないことが増えてきた。 ・小学生は保護者の送迎ができないため、通級できないことがある。
12	小牧市	学校教育課	日本語初期教室	直営		小・中学生	なし	日本語初期教室 本室・分室	通年	3か月	平日開催 60回ほど	5時間	41人	ブラジル・ペルー・フィリピン・中国・ベトナム・インドネシアなど	無	①サバイバル日本語②日本語基礎③技能別日本語④日本語と教科の総合学習⑤教科の補修	多言語への対応（語学相談員のいない言語） 入国予測が立たず、急激に増減する児童・生徒数への対応
13	新城市	新城市教育委員会 学校教育課	日本語初期指導教室「きぼう」	直営		小学1年生（6才）～中学3年生（15才）	特に設けていないが、同時に対応できるのは5人程度	新城小学校内・千郷小学校内	通年（長期休業中は開室していない）	新規入学者は、12週間。在籍児童に対応する場合は、該当校の日本語教室担当と相談をし、能力に応じて決定。	新規入学者は144時間分	3時間	15人	ブラジル	無	「いきいきと学校生活をおくるために120時間プログラム」をベースに初期の日本語を学んだり、学校生活や日常生活に適応できるように支援をおこなっている。	日本語で日本語を教えるという指導の形をとっている。多言語翻訳機やタブレットの翻訳機能などを使用してコミュニケーションをとるよう努めているが、来日間もない日本語をまったく理解していない児童生徒に対応するのは、なかなか難しい。母語の話せる支援員が定期的に対応出来ればよいが、その人材がおらず対応が難しい。また、12週間の通室を経ても、習得状況が芳しくないときは学級へ戻すタイミングがうまく見だめられない。
14	大府市	学校教育課	初期指導教室	直営		小中学生	概ね9人	市内小中学校	1期間あたり約3か月	約3か月	約36回	約4時間	20人	モンゴル、ベトナム、フィリピン、ウクライナ等	有（JSL対話型アセスメントDLA）	児童生徒を対象とした指導で、年齢の幅が広く、母語の習熟度も異なるため、基本的には個別指導を行う。	対象者がどの程度の習熟度に達すればよいか判断することが難しい。
15	知多市	知多市教育委員会 学校教育課	日本語初期指導教室 えがお	直営		知多市の小中学校に在籍する外国人児童生徒	募集定員なし	知多市立つつじが丘小学校	通年	3か月～1年	小学生：2コマ/日、中学生：3コマ/日	45分/コマ	4人	ブラジル、ポリビア、フィリピン	無	・基本的な読み書き ・学校生活適応指導	・つつじが丘小学校内に設置しており、学区外に外国人児童生徒の転入がある場合の対応について、保護者の送迎などの課題がある。令和5年度より、指導員の巡回を実施する予定である。 ・日本語初期指導が必要なレベルかどうかの判断基準に課題がある。
16	知立市	学校教育課	早期適応教室	直営		知立市内小中学校に在籍する児童生徒（小1～中3）	特に定めていない	杜若教室（知立市立知立東小学校内）	通年（長期休業中を除く）	約3ヶ月間	約60回	8時20分～15時00分	45人	ブラジル	有（県ブレスカール実施マニュアル）	初期の日本語指導 文字指導 算数・数学（おもに計算指導） 日本の学校の生活指導。	【ブレクラスの増設】 小1～中3が在籍する可能性があるが、年齢差が激しく、入室時期も異なるため、限られた指導員で効率的に指導するのが難しい。中学生を対象としたブレクラスを設置することが望ましい。 【通訳機器の充実】 ベトナム語など、通訳がいない言語を母語とする保護者に対応するため、通訳機器（ポケトークなど）を充実させることが望ましい。 教育委員会が「外国人児童生徒への日本語指導の専門教育を受けた者、または指導経験を有する者」・「日本語及びポルトガル語の高い運用能力を有する者」を雇用した「早期適応教室」の実施により、日本語教育が必要な児童生徒等に対して、日常生活や学校生活に即した日本語の習得及び生活習慣・文化に慣れさせ、日本に適応できる能力・態度を育てることが出来た。今後は、教室運営の拡充（対象者を「小学校」と「中学校」に分けるために2拠点へ）・将来を見据えた指導者の若返りと経験の引継ぎを図りたい。
17	高浜市	学校経営グループ	高浜市外国人児童生徒早期適応教室 くすのき	直営		7歳から15歳（小学校1年生から中学校3年生）	10人程度	市内2校の小学校の教室	4月から3月	1人3か月	60回程度	3時間程度	22人	ブラジル、フィリピン、ベトナム	無	平仮名・片仮名50音の読み書き、日常会話、学校に関係するものの名前・身近なもの名前の読み、1年生の漢字	・人数制限や保護者の送迎の都合で、通えない児童生徒の支援 ・1クラスに小1～中3までの学年差や日本語の習得量、来日時期に差があり、進度が様々なので、難しい面がある。
18	岩倉市	学校教育課	岩倉市学校生活適応指導教室	直営		7歳～15歳（小中学校在学期間）	必要と判断した児童生徒全員	岩倉市立岩倉東小学校	通年常時開設	原則1か月（最長2か月）	午前中4時間（8:45～12:25）を必要だけ	午前中4時間（8:45～12:25）	15人	ブラジル、フィリピン	有（日本語・教科テスト：10点以下入室（100点満点））	学校でのルール、ひらがな、日常会話	特になし。
19	豊明市	学校教育課	定住外国人日本語教育推進ブレクラス・プレスクール事業	委託	NPO法人プラス・エデュケイト	豊明市立小中学校に在籍する児童生徒のうち日本語初期指導が必要な児童生徒	5人程度×3レベル	豊明市内で学習に適した環境を整えた専用教室及び豊明市立二村台小学校内の特別教室	4月から3月まで（年間を通して実施）	3か月程度	240単位時間程度	2単位時間もしくは4単位時間	35人	ブラジル、ベトナム、フィリピン	有（DLA）	語彙学習、基本文法、技能別学習、教科の基礎学習など	・一度に指導できる人数に限りがあり、編入・転入者が同時期に多数いる場合には、初期指導の開始時期を待ってもらわなければならないこと
20	みよし市	学校教育課			NPO法人トルシーダ	小学1年生～中学3年生	30人ほど	なかよし教室（教育センター学びの森） おかよし教室（三好丘小学校）	令和4年4月～令和5年3月	3ヶ月間（原則）	週に2～5回	4時間ほど	登録人数は37人 年度途中の転出・初期指導を終えた児童生徒が10人	ブラジル・フィリピン・中国・ペルー・スリランカ	有（テストの種類：愛知県プレスクール語彙調査）	あいちの外国人児童生徒教育連携事業 日本語初期指導教室の在り方リーフレットNO.2 生き生きと学校生活を送るために 120時間（60日）プログラム	・学校とのつながり ・保護者との連携 ・なかなか初期の日本語教育の積み上げができず、期間を延長して実施していることが多い。 ・日本語指導が必要な児童生徒が多くいるため、一人一人に行き届かず戸惑うことがある。